

かわらだかせん 川原田合戦

せんごくじだい しもつけのくに げんざい とちぎけん ぶしやう
戦国時代には、下野国（現在の栃木県）でも多くの武将が、少し
でも自分の領地を広げようと争っていました。栃木市の北に位置す
るつがまち かせんば ちめい ゆらい
都賀町に合戦場という地名があります。この由来は、1523年
（たいえい せいりよく みながわし しもつけ
大永3年）に現在の栃木市付近を勢力としていた皆川氏が下野
のくに せいりよく うつのみやし かせん ばしよ
国の中心部で大きな勢力をもっていた宇都宮氏と合戦した場所
です。

みながわし うつのみやし たいぐん くせん そう みながわぐん
皆川氏は、宇都宮氏の大軍の前に苦戦し、総くずれとなった皆川軍
は、らくじやうすんぜん おい こ みながわじやう
は、落城寸前にまで追い込まれましたが、なんとか皆川城だけは
守り通しました。かせんば ますつか
合戦場の北の方に、升塚といわれる塚があります。
この塚には、かわらだかせん ほうむ
川原田合戦のときに戦死した人々が葬られているそう
です。

（「栃木市のあゆみ」栃木市教育委員会から）



升塚